

第20回国立市健康危機管理対策本部会議記録

日時	令和3年8月10日（火）午前10時40分から午前11時40分
場所	市議会委員会室
出席者	永見市長、竹内副市長、両宮教育長、宮崎政策経営部長、藤崎行政管理部長、松葉子ども家庭部長、大川健康福祉部長、葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長、鈴木環境政策課長、門倉都市整備部長、江村都市整備部参事、矢吹会計管理者、橋本教育次長、内藤議会事務局長、佐伯オンブズマン事務局長、玉江選挙管理委員会事務局長、田代監査委員事務局長
付議事項	(1) 市内の感染状況について (2) 職場で継続する感染拡大防止対策について (3) 自宅療養者への医療支援について
<p>主な内容</p> <p>(進行：大川健康福祉部長)</p> <p>1 本部長あいさつ（永見市長）</p> <p>感染者数が爆発的に増加しており、国立市においても増加する自宅療養者に対してどのように対応していくかということが課題である。現在の感染経路としては、いつどこで感染したのか分からないケースが増えている。市の職員が感染すると、通常の業務だけでなく、市のコロナ対策への影響が大きくなっていく。それらを最小限に抑えるために、真摯に議論していただきたい。</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 市内の感染状況について（大川健康福祉部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都モニタリング会議資料（資料No1） <p>(2) 職場で継続する感染拡大防止対策について</p> <p>今までの市職員の感染事例だと、ほとんどは家庭内感染。家族の体調不良等は早く察知して、感染の可能性がないことが確認できるまでは出勤しないことが重要。（平職員課長）</p> <p>引き続き、各部でテレワーク及び時間差勤務の推進をはかる。（大川健康福祉部長）</p> <p>(3) 自宅療養者への医療支援について（葛原地域包括ケア・健康づくり推進担当部長）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の患者が発生すると、保健所が疫学的調査及び療養場所の調整を行うことになっている。患者から市に寄せられた情報によると、保健所からの連絡が届きにくい状況もあるようだ。</p> <p>国立市では、自宅療養者に対して以下の事業を継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅待機者等生活支援事業 <p>自宅療養者や濃厚接触による自宅待機者を対象に、食品や日用品の提供、パルスオキシメーター（動脈血中酸素飽和度測定器）の貸出し、相談支援等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅要介護者等支援体制整備事業 <p>在宅で過ごす要介護者やしょうがいしゃのうち、行政検査の対象とならないが在宅生活の継続のための対応が必要な場合に、PCR検査及び待機時の在宅支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、これに加えて自宅療養者医療支援のスキームを早急に整え、市医師会との協力のうえ実施できるよう全庁を挙げて対応する。 <p>3 本部長指示及び対応方針について（永見市長）</p> <p>市職員に感染者が発生すると、ワクチン接種など市の業務に大きな影響を及ぼすので、職場内での感染が拡大しないよう細心の注意をしていただきたい。自宅療養者の医療支援については、市医師会との調整や費用面での問題もあるが、適切な医療が受けられないという状況が生じないよう、市として可能な範囲で対策を講じていきたい。</p>	

以上